



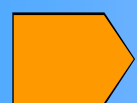
# 2020年3月期 第1四半期 決算補足資料

証券コード：6908

2019年8月2日

イリソ電子工業株式会社



-  I . 2020.3期 第1四半期連結決算概要
- II . 2020.3期 連結決算見通し

## 前期後半からの市況悪化が継続。売上・利益ともに前年同期比減少

- ・ 売上：前期後半から米中貿易摩擦の影響により自動車市場、インダストリアル市場ともに市況が悪化。自動車販売台数の減少、投資の抑制が続いており、減収
- ・ 利益：売上減の影響を受けるも、更なる原価低減の推進や経費の削減を行い減益幅を縮小。  
四半期別では、悪化傾向であった営業利益率が良化

### 【トピックス】

- ・ ADASの進展により安全系(カメラ・レーダー)向けが20%弱増加、三次元可動BtoBコネクタ“Z-Move<sup>®</sup>”を含む電動車のパワートレイン系向けが60%弱増加。この2領域で全売上の約20%を超える規模へ。  
→中国、アメリカ、欧州といった主要地域で自動車の販売が振るわない中、注力している分野は確実に増加。  
引き続き、将来の受注獲得に向けて製品開発、営業活動を強化して参ります。
- ・ テレビ関係のお客様が生産ラインを自動化するために、当社の可動BtoBコネクタの採用を決定  
→自動組立を可能にする「可動BtoBコネクタ」、「Auto Lockコネクタ」、「2点接触コネクタ」といったロボット組立適合コネクタを各市場のお客様にイリソの「顧客価値創造」のソリューションとしてご提案して参ります。

## 2. 2020年3月期第1四半期連結業績(前年同期比)



単位：百万円

	19.3期 第1四半期	20.3期 第1四半期	前年同期比
売上高	10,886	10,040	△845 92.2%
営業利益	1,918 (17.6%)	1,398 (13.9%)	△520 72.9%
経常利益	2,074 (19.1%)	1,347 (13.4%)	△726 65.0%
親会社株主に 帰属する 四半期純利益	1,589 (14.6%)	909 (9.1%)	△679 57.2%
EPS	67.13円	38.60円	
為替レート 期中平均	ドル 108.71円 ユーロ 129.39円	109.98円 123.28円	1.27円 △6.11円

### 3. 売上高詳細(市場別)

単位：百万円

		20.3期 第1四半期	前年同期比	構成	増減要因
オートモーティブ(車載)		8,575	92.4%	85.4%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 主要地域で自動車販売が不振</li> </ul>
区分	AVN (カーAV、ナビゲーションシステム等)	3,651	83.3%	36.4%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ カーエレクトロニクス分野は、ADAS関連で安全系向けが前期比20%弱、電動化関連でパワートレイン系向けが前期比60%弱増加したことにより、横ばいを維持</li> </ul>
	エレクトロニクス (安全系、電装関連、駆動系等)	4,924	100.6%	49.0%	
コンシューマー (OA、ゲーム機、デジカメ、携帯電話、TV等)		970	97.3%	9.7%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 複合機、デジカメ向けを中心に減少</li> </ul>
インダストリアル (産業機器等)		495	81.2%	4.9%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 米中貿易摩擦の影響で設備投資が抑制されており減少</li> </ul>
合計		10,040	92.2%	100.0%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 海外比率80.2%</li> </ul>

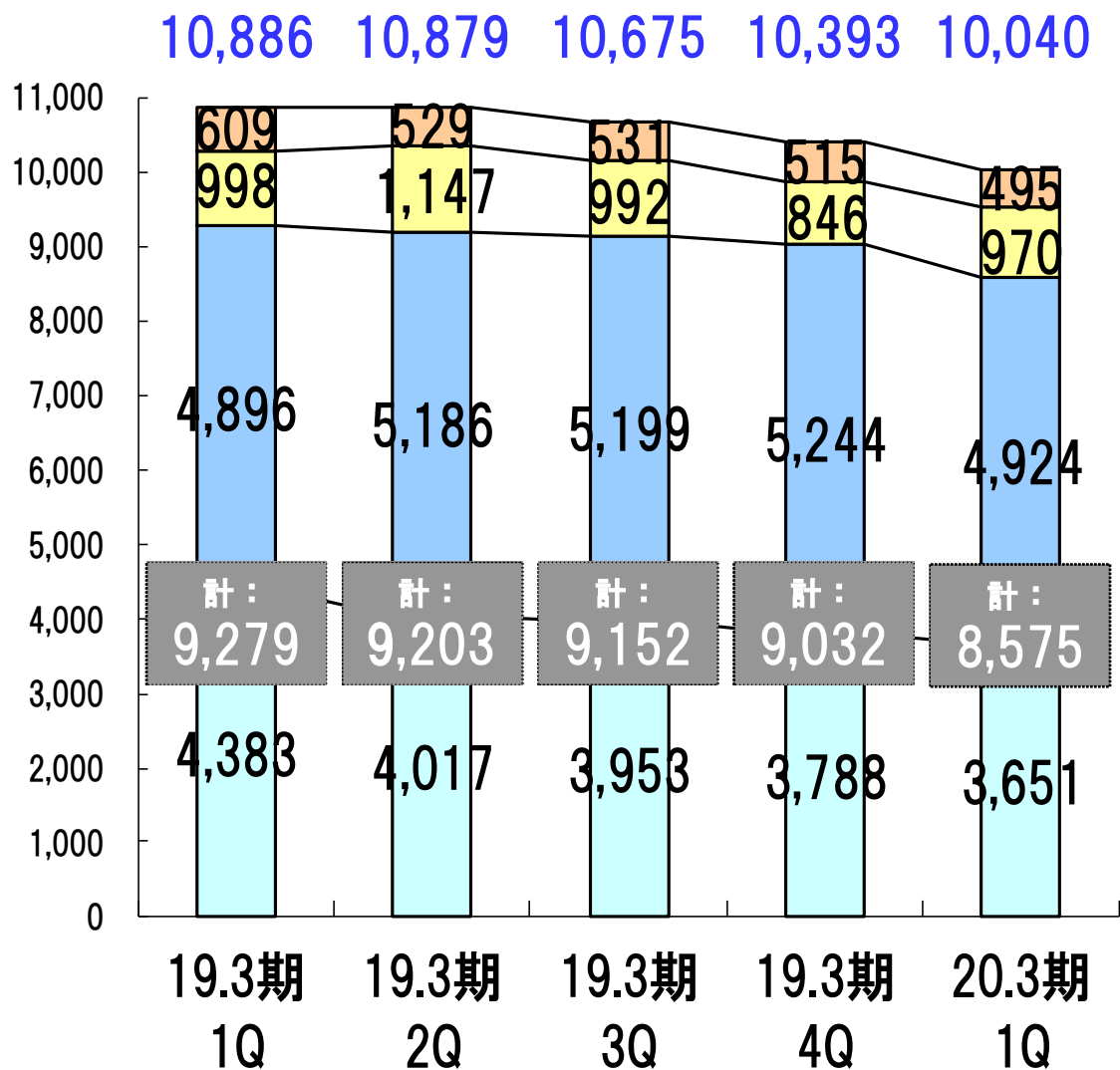
注：AVNIは、オーディオビジュアルナビゲーションの略で、カーオーディオ全般、ナビゲーションシステム等のこと



# 4. 市場別売上高(四半期推移)



単位：百万円



◆対19.3期1Q

インダストリアル 81.2%

コンシューマー 97.3%

車載 (エレ) 100.6%

車載 (全体) 92.4%

車載 (AVN) 83.3%

・米中貿易摩擦の影響による設備投資抑制もあり、FA機器向けの需要鈍化が継続

・複合機、デジカメ向けを中心に減少  
 ・直前四半期比ではゲーム機向けが増加

・特に中国を中心に、アメリカ、欧州の新車販売不振の影響で、従来から搭載されているカーナビやクラスター、スイッチ関連向けで減少  
 ・AVN分野は1台当たりの搭載金額減少の影響もあり  
 ・新たに搭載されている安全系とパワートレイン系向けは堅調

□車載 (AVN) □車載 (エレクトロニクス) □コンシューマー □インダストリアル

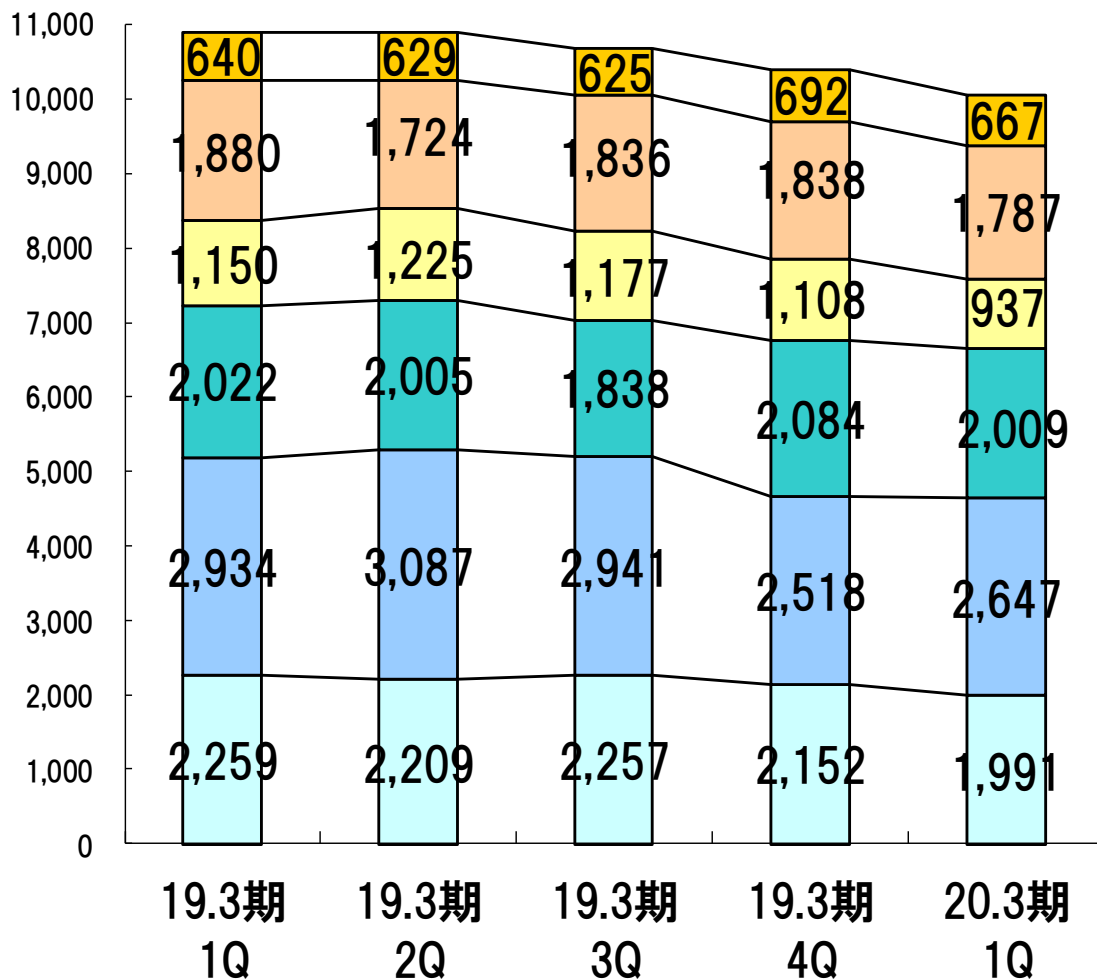


# 5. 地域別売上高(四半期推移)



単位：百万円

10,886 10,879 10,675 10,393 10,040



◆対19.3期1Q

タイランド  
104.2%

米国  
95.1%

シンガポール  
81.5%

欧州  
99.4%

中華・韓国圏  
90.2%

日本  
88.2%

・コンシューマー市場の減少を車載市場がカバー

・カーエレクトロニクス分野で伸びるもAVN分野で減少

・車載市場が減少。

・カーAVN分野は減少するもカーエレクトロニクス分野は好調  
・円高の影響がなければ増加

・乗用車販売不振でカーAVN分野が減少

カーエレクトロニクス分野で増加したが、その他の市場で減少

□日本 □中華・韓国圏 □欧州 □シンガポール □米国 □タイランド



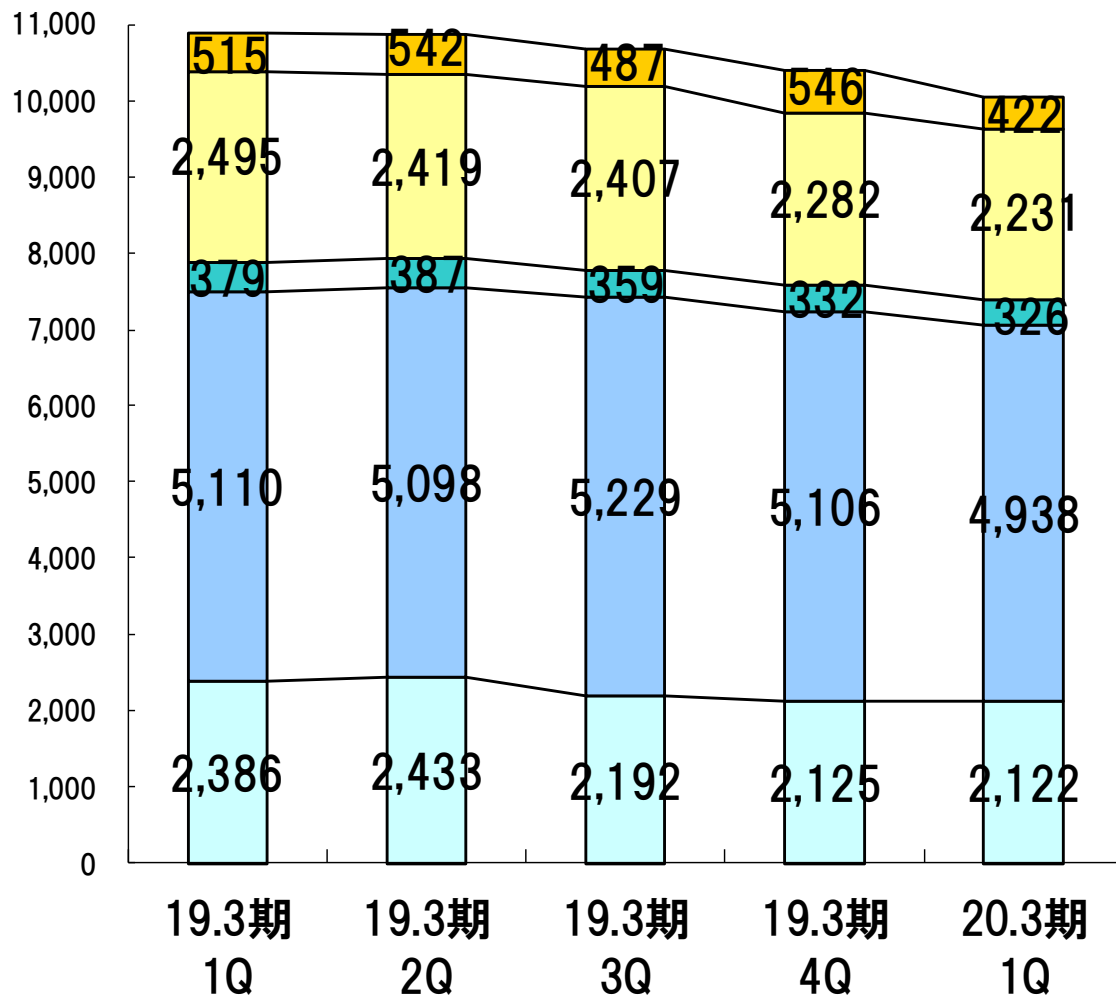
# 6. 製品別売上高(四半期推移)



単位：百万円

10,886 10,879 10,675 10,393 10,040

◆対19.3期1Q



その他  
82.2%

車載IFコネクタ  
89.4%

ピンヘッダー  
86.0%

BtoBコネクタ  
96.6%

FPCコネクタ  
88.9%

・ 車載市場の減少

・ カーAVN分野、  
コンシューマー市場での減少



□FPC □B to B □ピンヘッダー □車載向けIF □その他



## 7. 損益計算書(連結)(前年同期比)



単位：百万円

	19.3期 第1四半期		20.3期 第1四半期		前年同期比	
売上高	10,886	100.0%	10,040	100.0%	△845	92.2%
売上原価	6,797	62.4%	6,533	65.1%	△263	96.1%
売上総利益	4,089	37.6%	3,506	34.9%	△582	85.8%
販売管理費	2,171	19.9%	2,108	21.0%	△62	97.1%
営業利益	1,918	17.6%	1,398	13.9%	△520	72.9%
営業外収益	173	1.6%	35	0.4%	△137	20.8%
営業外費用	16	0.2%	86	0.9%	69	508.6%
経常利益	2,074	19.1%	1,347	13.4%	△726	65.0%
特別損益	△15	△0.1%	△22	△0.2%	△6	141.1%
税前利益	2,058	18.9%	1,325	13.2%	△733	64.4%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	1,589	14.6%	909	9.1%	△679	57.2%
E P S	67.13円		38.60円		-	
為替レート (ドル/ユーロ)	108.71円/		109.98円/		1.27円/	
	129.39円		123.28円		△6.11円	



## 8. 貸借対照表(連結)(前期末比)



単位：百万円

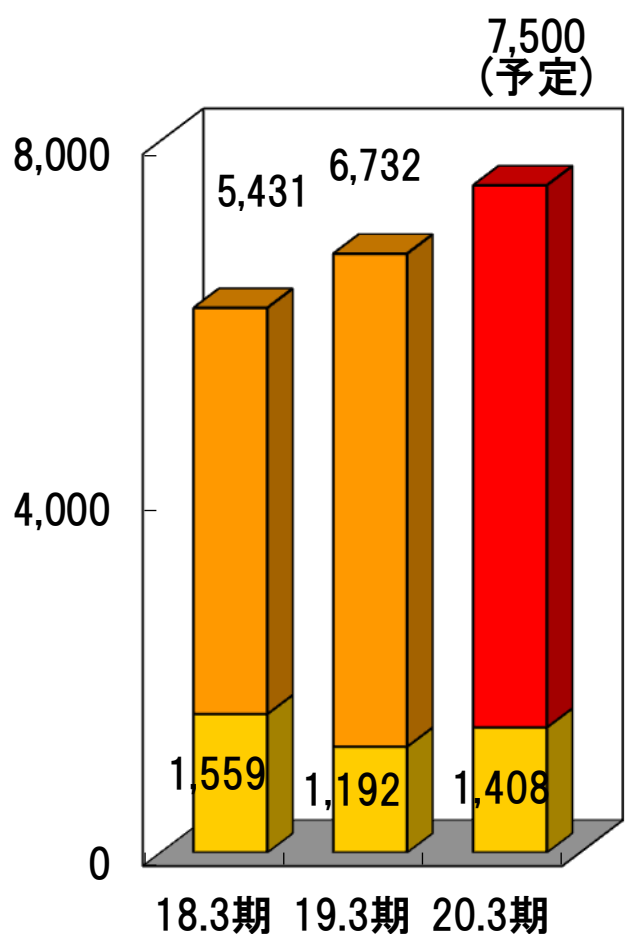
	19.3期		20.3期 第1四半期		前期末比	要因
流動資産	35,103	57.1%	32,290	54.5%	△2,813	現金及び預金△2,497 受取手形及び売掛金△125
固定資産	26,368	42.9%	26,959	45.5%	590	有形固定資産1,047
資産合計	61,471	100.0%	59,249	100.0%	△2,222	
流動負債	9,442	15.4%	8,510	14.4%	△931	未払金525 未払法人税等△1,346 支払手形及び買掛金△213
固定負債	699	1.1%	1,191	2.0%	491	
負債合計	10,141	16.5%	9,701	16.4%	△439	
株主資本	49,351	80.3%	48,840	82.4%	△510	利益剰余金△510
その他の 包括利益累計額	1,663	2.7%	387	0.7%	△1,275	為替換算調整勘定△1,260
非支配株主持分	315	0.5%	320	0.5%	4	
純資産合計	51,329	82.0%	49,547	83.6%	△1,782	1株純資産 2,088.86円 (前期末 2,164.68円)
負債・純資産 合計	61,471	100.0%	59,249	100.0%	△2,222	



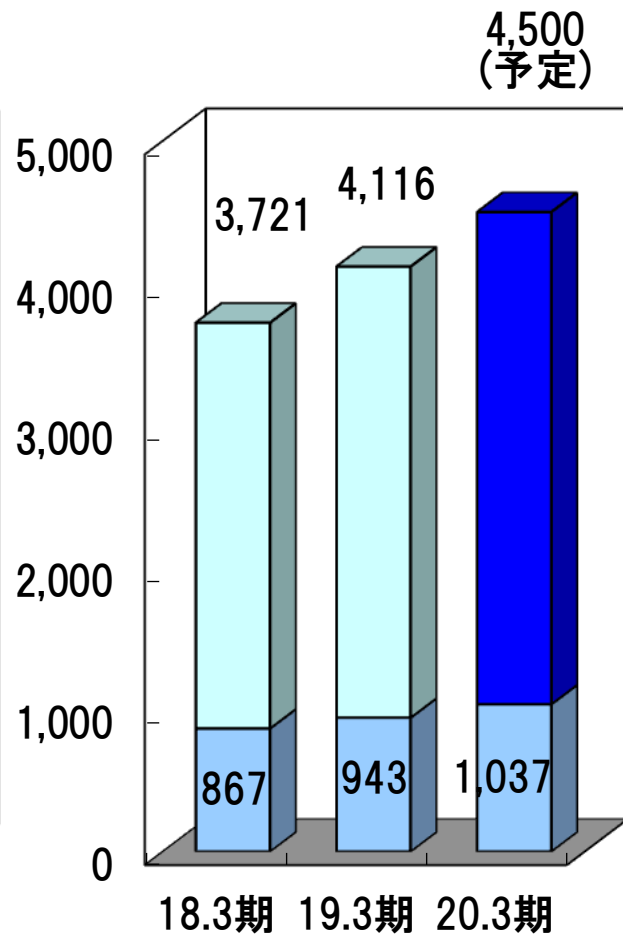
# 9. 設備投資・減価償却・研究開発



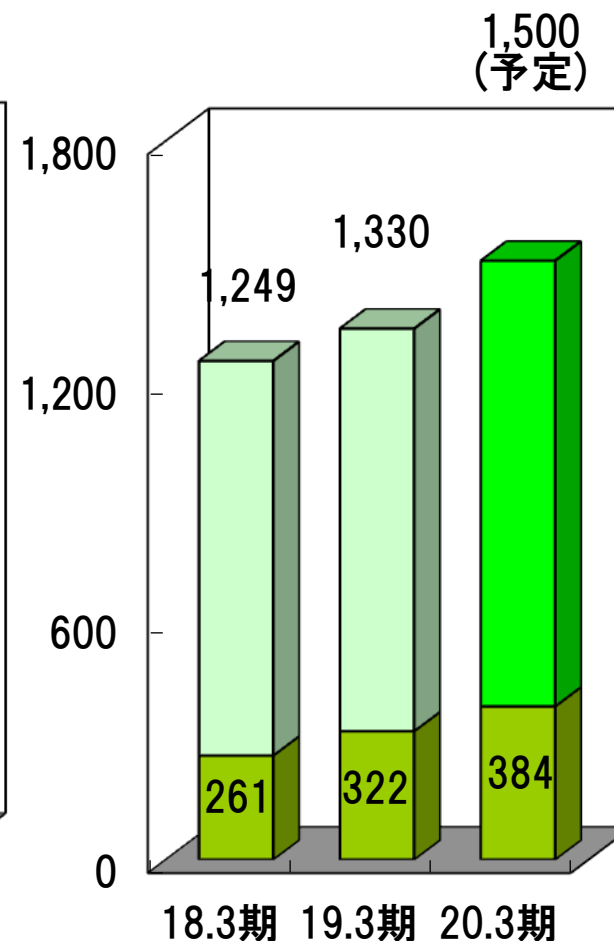
単位：百万円



## 設備投資



## 減価償却



## 研究開発

注：各グラフの数値は、下段に第1四半期累計の実績、上位に通期での実績(20.3期は予定)を記載



**I . 2020.3期 第1四半期連結決算概要**

 **II . 2020.3期 連結決算見通し**



# 1. 2020年3月期 計画(前期比)



単位：百万円

	19.3期 実績	(上期) (下期)	20.3期 計画	(上期) (下期)	通期 前期比
売上高	42,834	(21,765) (21,068)	45,000	(21,500) (23,500)	2,165 105.1%
営業利益	6,084 (14.2%)	(3,674) (2,409)	8,100 (18.0%)	(3,400) (4,700)	2,015 133.1%
経常利益	6,325 (14.8%)	(4,035) (2,289)	8,100 (18.0%)	(3,400) (4,700)	1,774 128.1%
親会社株主に 帰属する 当期純利益	3,722 (8.7%)	(2,966) (755)	6,100 (13.6%)	(2,600) (3,500)	2,377 163.9%
EPS	157.70円	—	258.84円		
為替	ドル110.69円 ユーロ128.43円	—	ドル110.00円 ユーロ125.00円		



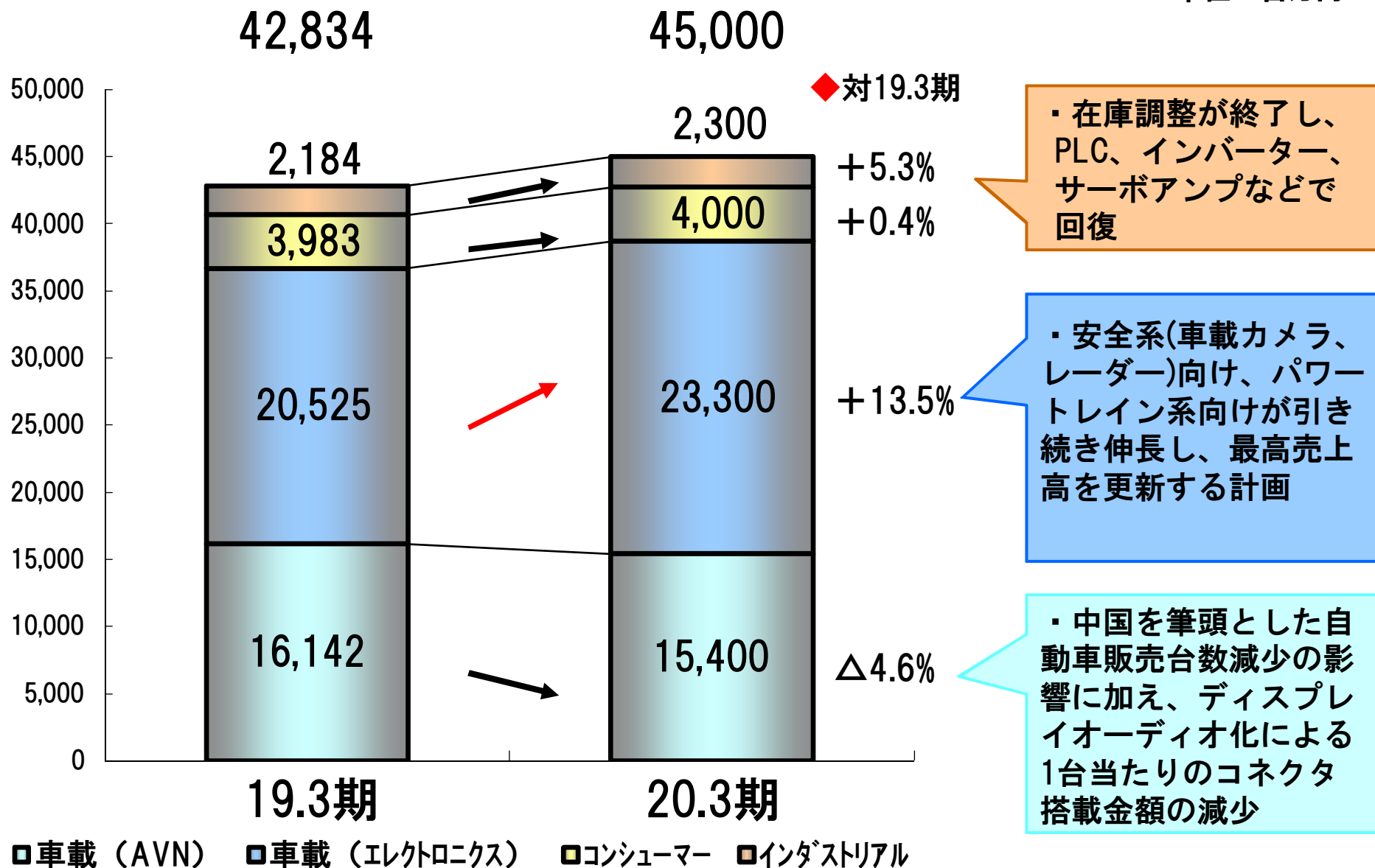
## 2. 2020年3月期 計画(設定条件)



項目	設定条件
	USD 110.00円 / \$
為替	EUR 125.00円 / €
	元 16.50円 / 元
設備投資	7,500百万円
減価償却	4,500百万円
研究開発費	1,500百万円

### 3. 市場別売上高(通期累計)

単位：百万円





## 4. 今後とコンティンジェンシープラン



現状は業績の見直しは行いませんが、外部環境は不透明さを増しており、注視が必要な状況です。

当社の主力の車載市場への現在の活動は2～3年後のモデルへの搭載の商談がメインであり、長期目標売上1,000億円のための活動は引き続き行っていきますが、同時に足元の状況を考慮し、5月に発表したマクロ経済の悪化を想定したコンティンジェンシープランを着実に実行して参ります。

### コンティンジェンシープラン(再掲)

	項目	効果	施策
コンティンジェンシープラン	追加の原価低減実施	約5億円	早期に実施し、効果を早める
	設備投資の厳選	約0.8億円	确实性を重視した効率的投資
	経費の削減	約5億円	経費の厳選と管理の徹底
	人員の適正採用	約0.7億円	業務効率化の実施



会 社 名	:	イリソ電子工業株式会社
事 業 内 容	:	各種コネクタの製造・販売
設 立 年 月	:	1966年12月
社 員 数	:	3,645名(2019年3月31日現在)
資 本 金	:	5,640百万円(2019年3月31日現在)
本 社	:	神奈川県横浜市港北区新横浜2-13-8
営 業 拠 点	:	
	国 内	本社、岩手県、茨城県、愛知県、大阪府
	海 外	シンガポール、香港、アメリカ、ドイツ、タイ、韓国 中国（上海、大連、天津、蘇州、深圳、重慶）、マレーシア、 台湾、インド
研 究 開 発	:	本社(イリソテクノロジーパーク)、 川崎(生産技術センター)、上海R&Dセンター
工 場	:	茨城県、中国(上海、南通)、フィリピン(マニラ)、 ベトナム(ハイズオン)

## コネクタの種類

### 基板対基板コネクタ（BtoBコネクタ）

プリント基板の接続用に開発されたコネクタの総称でボード・ツー・ボードコネクタ（ボードtoボードコネクタ）とも呼ばれる。垂直接続、平行(スタッキング)接続、水平接続など組み合わせで、さまざまな接続が可能となる。B to B（ビー・ツー・ビー）は、当社の登録商標として市場で広く浸透している。

### FPC/FFCコネクタ

FPC基板（Flexible printed circuits）やFFCケーブル（Flexible flat cable）の接続用に開発されたコネクタの総称。コネクタの挿入時に力を加えずにロック可能なZIF（Zero insertion Force）タイプ、挿入したときに力が発生するNON-ZIFタイプがある。

### I/Fコネクタ

I/Fとは、インターフェイスの略で、機器間の信号の接続を行うコネクタのことで、I/O（インプット/アウトプット）コネクタとも呼ばれる。カーナビ、PCなどさまざまな機器の側面（裏・表面）に装着され、機器への電源供給、音声・映像信号データなどの入出力を行う。

### ピンヘッダー

線材をカット加工した“ピン（電導体）”をハウジング（樹脂材でできた絶縁体）で支えたプラグ（オス側）コネクタの基本形であり、さまざまな分野・機器の内部接続（基板間接続）に使用されている。横から見ると、生け花の花止め“けんざん”のように見えるのが特長。メス側はソケットと呼ばれる。

この資料に記載されております業績の予想数値につきましては、本資料の発表日現在で得られた入手可能な資料に基づいて作成したものであり、今後の様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。

当社といたしましては、投資家の皆様にとって重要と考えられるような情報について、その積極的な開示に努めて参りますが、本資料記載の見通しのみに依拠してご判断されることはお控え下さるようお願いいたします。

なお、本資料の利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。